

男女共同参画推進のための学び・キャリア形成に 関する有識者会議（第2回）議事次第

日 時： 平成29年11月22日（水）13：30～15：30

場 所： 文部科学省生涯学習政策局会議室（9階）

議 題：

1. 学びを通じた女性の社会参画について
2. 平成29年度「女性の学び支援のための研究協議会」の開催について
3. その他

【配付資料】

資料1 学びを通じた女性の社会参画について（論点の整理）

資料2 平成29年度「女性の学び支援のための研究協議会」開催要項（案）

参考資料 女性の再就職・再雇用 出産・育児等を機に離職しても女性が活躍できる
社会に向けて

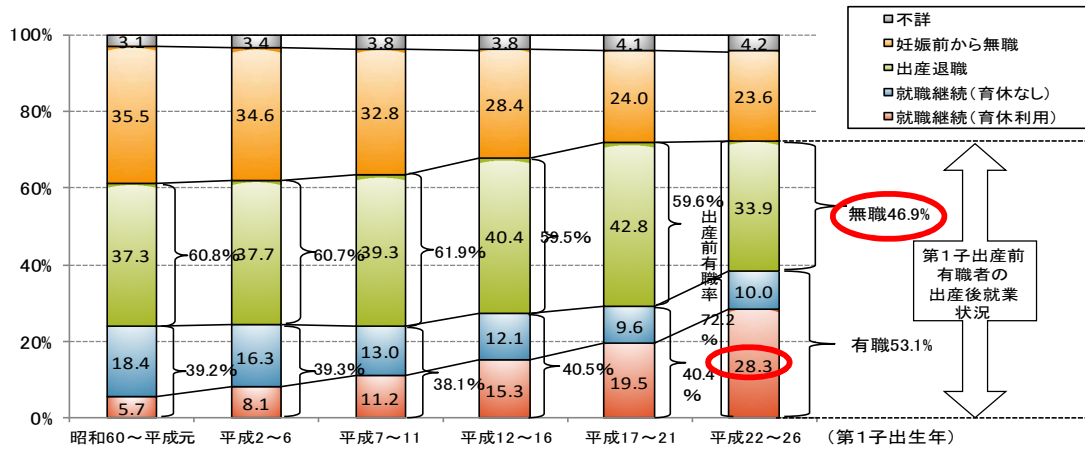
学びを通じた女性の社会参画に ついて

(論点の整理)

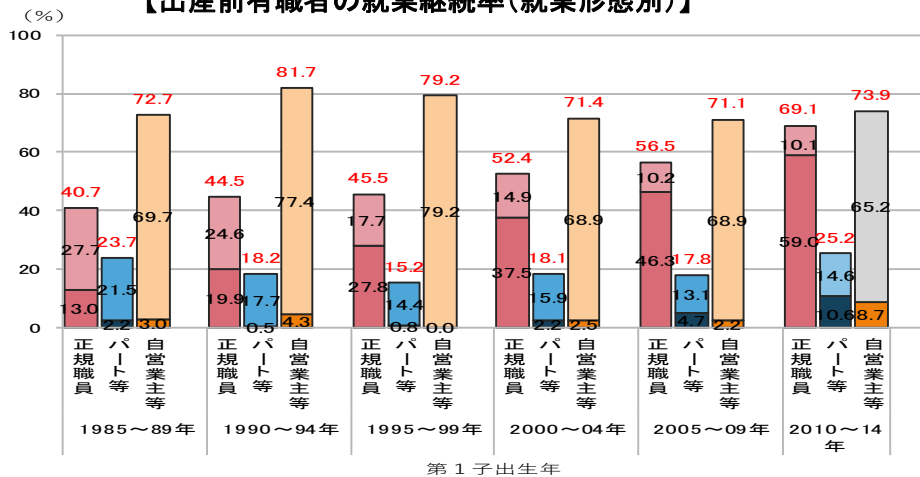
女性をめぐる現状

子育て等により離職した女性が、一定期間を経て復職・社会参画する際の知識や技術のギャップを解消するための「リカレント教育」を検討。また、女性を取り巻く雇用環境のポジティブな変化も考慮し、就業継続のため育児休業中の女性の復職前の両立に向けた学びや就労中の人を含め、自分のより良い選択のための学びという観点も必要。

第1子出産前後の妻の就業状況

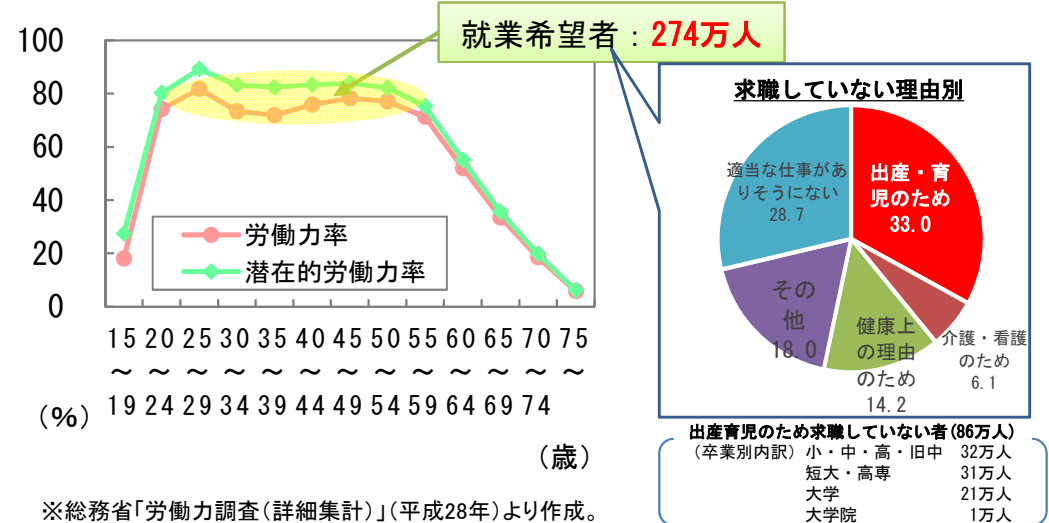


【出産前有職者の就業継続率(就業形態別)】

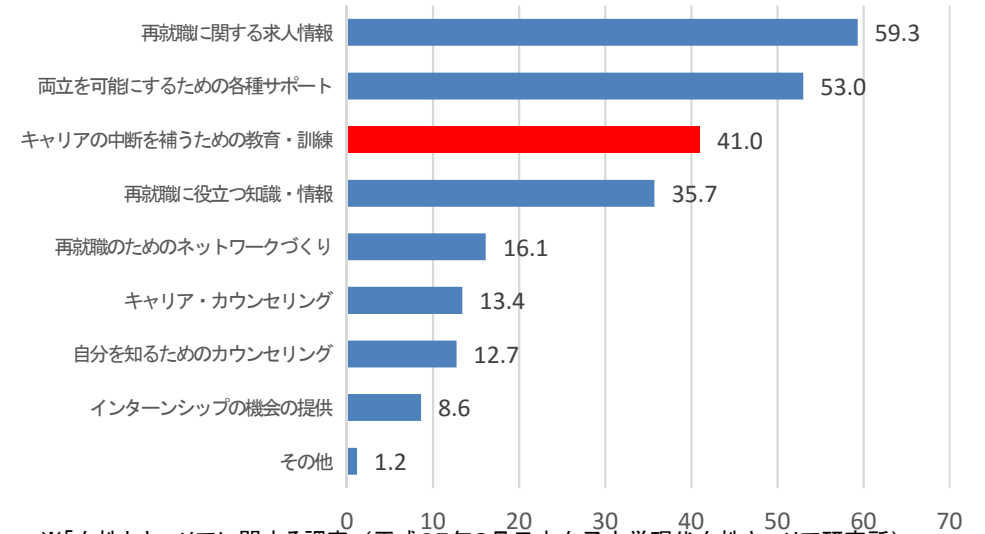


※国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査(夫婦調査)」より作成。

子育て世代の女性の離職の状況 (M字カーブ)



女性が再就職において必要と思う支援



※「女性とキャリアに関する調査」(平成25年3月日本女子大学現代女性キャリア研究所)
※職業の中断期間が1年以上ある女性

地域連携モデルのイメージ(例)

地域の男女共同参画センター、大学等、産業界、就業支援機関等が連携し、学びの入口から出口まで、切れ目のない寄り添う支援を行うモデルを構築。



NPO法人や地域活動の場で活躍！

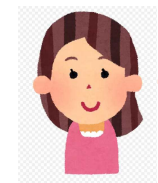


起業したり、再就職したりして活躍！

- ◆ 合同就職説明会
- ◆ 起業スクール 等

専門性を高めるための学び

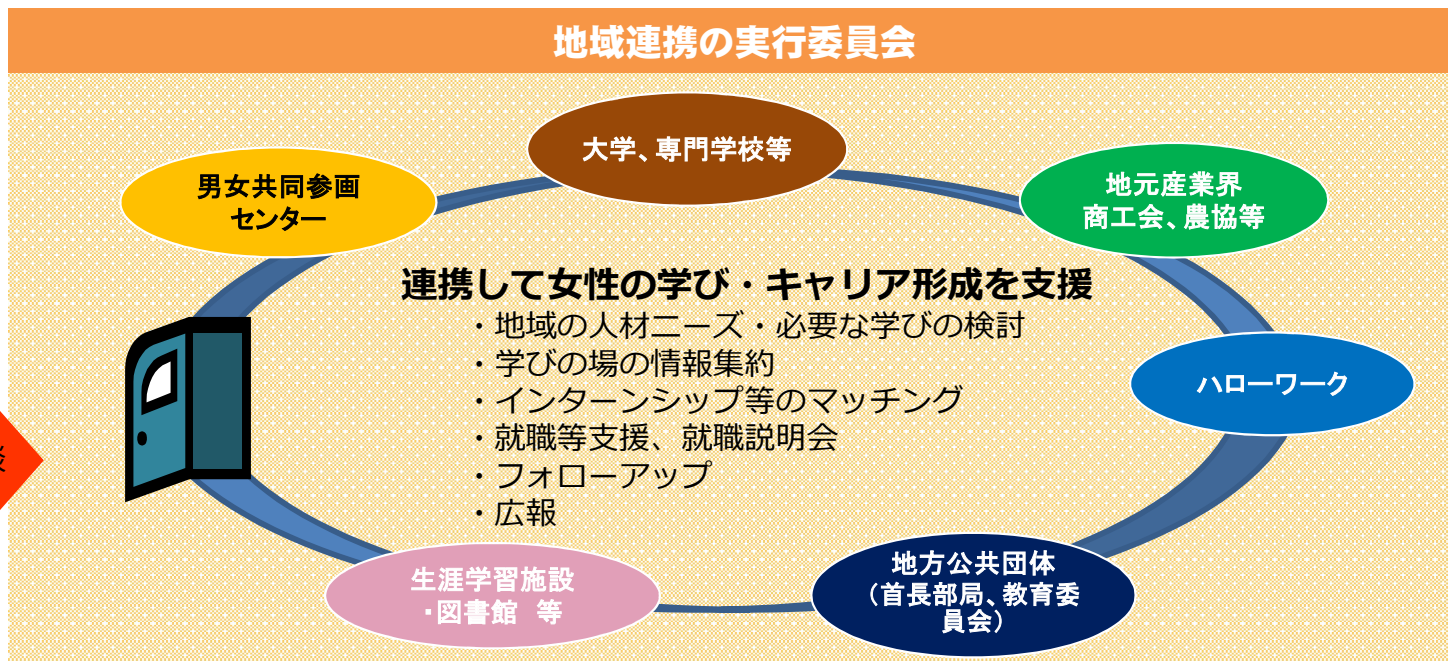
- ◆ 専門的な知識・技能の修得
- ◆ 専門的な資格取得
- ◆ インターンシップ 等



必要な知識・技能をもっと専門的に学びたい！

キャリアプランニングのための学び直し講座に参加

- ◆ 自分発見講座、キャリアプランニング
- ◆ コミュニケーション講座
- ◆ PC講座
- ◆ 希望するキャリアに必要な知識・技能
- ◆ 不安の解消、仲間づくり 等



子育て等の経験を活かして社会で活躍したいけど、どうすればいいの？



相談

社会参画に向けてのキャリア形成の段階①

学びの場
への誘導

就業を希望しつつも具体的な行動を起こしていない潜在的な学び直し人口の掘り起こしを含めた学びへの誘導も検討が必要。

➤ 学びの場への誘導としてのチャンネル、方策

大 学：同窓会ネットワーク

自治体：男女センター、公民館、住民窓口

その他：PTA、婦人会、子育てひろばでの広報等

- 学び直しを必要とする人が必要なプログラムにアクセスするための仕組みが必要。ライフイベントの際に住民と接点を持つ自治体からターゲットとなる女性たちに学びの機会に関する情報提供が行われるような仕組みが必要であり地域の中で連携を図っていただく。

※具体的な行動につながるような情報（支援制度、学びの場、雇用状況等）の届け方の工夫が必要ではないか。

参考) ①出産・育児等を理由とする場合の雇用保険給付（教育訓練給付）受給期間の延長（4年→20年）

②社会人が学べる大学・専修学校等や支援制度に関する情報発信の改善

自己発
見・キャ
リアプラ
ニング

就業に向
けた学び

就業支援

フォロー
アップ

社会参画に向けてのキャリア形成の段階②

学びの場
への誘導

➤ 自己啓発・キャリアプランニングのための学びの場所、内容

男女センターやキャリアセンター等のセミナーや個別カウンセリング

就業の前段階としてのマインドアップや、就業後の両立に向けた働き方に関する学びを含む

次のステップの学びの場や教育訓練給付金などの支援制度の紹介

自己発
見・キャ
リアプラ
ニング

- 再就職から継続につなげるため、スキルとマインドの両者を備えたプログラムの検証が必要。
- 学び直しの講座のプログラムにはジェンダーの視点を取り入れることも必要。
- 地域の産業構造等を踏まえ、離職女性等のキャリア形成のために何を身に付けるべきか、焦点を絞ってプログラムを検討すべき。
- 学び直しをした女性達が社会の担い手になっていくため、リカレントのプログラムには、応用力、掴み取る力、創造力、ネットワークする力を身に付けられるような内容を盛り込み、今あるところにはめ込むような就職支援だけではない、その先を見越した支援が必要。
- 人生100年時代を見据え、子育てに掛かる期間は所詮10年、20年で、残された時間をずっと社会活動をせずにやっていくのかという問題もある。また、これから自分が死ぬまでに掛かっていくお金をどこから捻出するのかということも考えると、恐らく女性自身が働かなくては、なかなか人生設計が難しくなるということもある。こうした社会的課題をしっかりと入れることで、覚悟をもって働くということを伝えることも必要。

就業に向
けた学び

※支援人材の養成、確保が必要ではないか。

※動画を含め、モデルコンテンツの開発が考えられるのではないか。

就業支援

フォロー
アップ

社会参画に向けてのキャリア形成の段階③

学びの場
への誘導

企業ニーズを踏まえた実践的な学びのプログラム開発の検討も必要。
学びの内容や領域に応じて、業界団体や労働部局等、様々な関係者が体制や学習内容・提供方法をオーガナイズ。

➤ 就業に向けた学びの方策、課題

語学、コミュニケーション、IT、プレゼン、課題解決等、汎用的な学習
専門分野に応じた学習

インターンシップや企業での実地研修・プレゼン等のプログラム

大学における保育環境整備の推進による学び・子育ての両立環境の構築

自己発
見・キャ
リアプラ
ニング

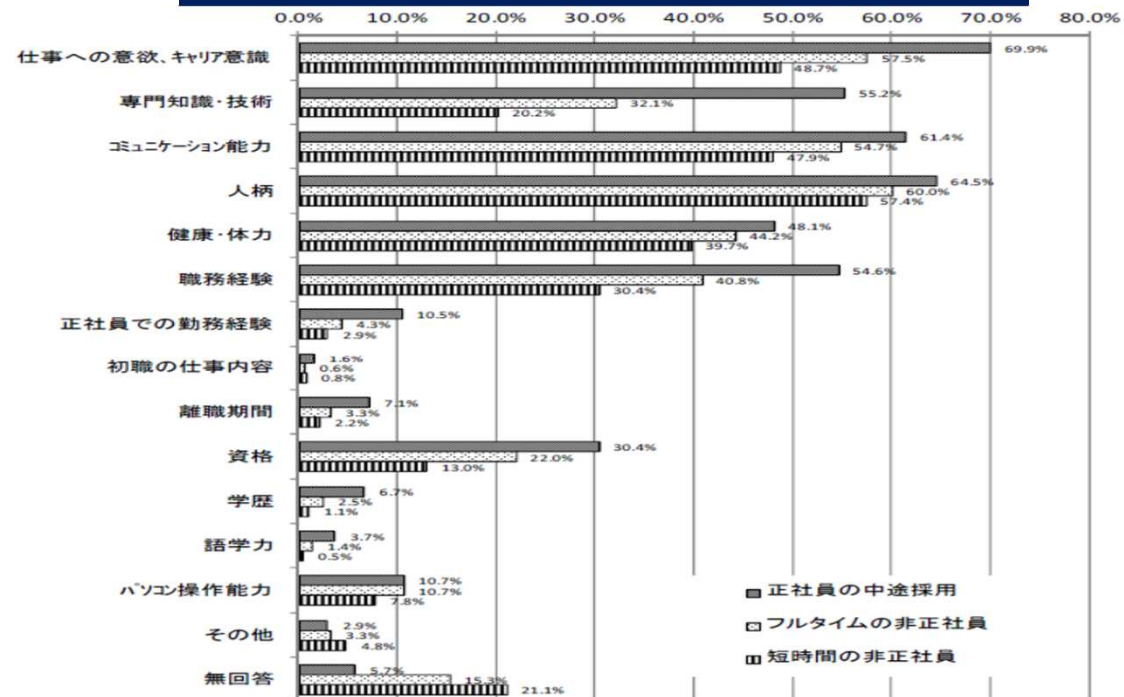
- リカレント教育は、最終的に、学んだ学問を世の中にどう役立てるかが重要。例えば大学で学び直しをした女性を対象に、インターンシップを実施し、経験を積んだ上で就職につなげていくといった、学んで就職というだけでなく、その間に必要な実践的なものも含めて考える。
- リカレント教育は時間と経費が掛かるため、リカレント教育から就職のことまで念頭に置いてワンセットで考える必要がある。

就業に向
けた学び

就業支援

フォロー
アップ

採用の際に重視していること（複数回答）



社会参画に向けてのキャリア形成の段階④

個人のキャリアやスキル、現在の状況や今後の希望及び地域の求人状況に応じたきめ細やかなアプローチが必要。

➤ 就業支援のための方策、課題

面接指導、書類作成など実践的なノウハウ指導

ハローワークや人材紹介会社、業界団体と大学等との連携

合同説明会や大学等を通じた求人（キャリアセンターの充実）

保育所が確保されるまでの学内保育所・連携保育所の継続利用

- 子育て等によるブランクを白紙だと捉えるのではなく、女性達がプラスとして自信をもって再就職・再参画につながるような視点が必要。企業など出口で女性を受け入れる側にとっても、こういった女性達が戦力になるというメッセージが必要。
- 学んだことが社会から評価されて、それがある程度収入の向上につながるというルートも必要。

学びの場
への誘導

自己発
見・キャ
リアプラ
ニング

就業に向
けた学び

就業支援

フォロー
アップ

社会参画に向けてのキャリア形成の段階⑤

継続就業だけでなく、自分のより良い選択のための学び直しという観点が重要。

➤ 就職後の支援・フォローアップの方策、課題

非正規から正規へのキャリアアップ、継続就業支援

リーダー・マネジメント層を目指すためのキャリアアップの学び

修士号・博士号などへのステップアップ

同窓会ネットワークの形成

- 継続して就労できるよう支援することも必要。
- 両立のための支援、学びや、人生100年時代のキャリアについて大きな目で捉える視点について学んでもらうことで、就労継続のモチベーションを上げていくということも、一つのニーズとしてあるのではないか。
- 成功例のポイントを共有すべき。

学びの場
への誘導

自己発
見・キャ
リアプラ
ニング

就業に向
けた学び

就業支援

フォロー
アップ

平成 29 年度女性の学び支援のための研究協議会開催要項（案）

1. テーマ

リカレント教育を通じて広がる女性の社会参画（仮）

2. 概要等

男女がともに仕事と家庭、地域における活動に参画し、活躍できるような社会の実現を目指すためには、個人の可能性を引き出すための学びが必要不可欠である。また、人生 100 年時代を迎える中で、各自が自分の個性を最大限発揮しながらキャリアを築いていくために、リカレント教育の重要性はより一層高まっている。

このため、子育て等を機に一旦離職した女性が、リカレント教育を活用して復職・再就職しやすい環境整備の在り方や、地方公共団体や男女共同参画センター等の関係機関と連携し、地域の中で女性の学びとキャリア形成・再就職支援を一体的に行う仕組みづくりに関する取組の普及啓発のための研究協議会を開催する。

3. 会場

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター
（〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1）

4. 日時

平成 30 年 2 月 26 日（月） 12 時 30 分～18 時 00 分

5. 開催内容等

①主催等

主 催：文部科学省
委託先：株式会社 TBS ラジオ
後 援：内閣府（申請予定）

②参加対象

再就職支援団体、起業支援団体、地域活動支援団体 等

③定員

120名

④プログラム

12:30～13:30 受付

13:30～13:40 オープニング（開会挨拶）

13:40～14:25 基調講演 残間 里江子（仮）
（休憩）

14:45～15:45 事例報告（日本女子大学、委託先のうち1団体）

15:50～16:50 パネルディスカッション

コーディネーター：残間 里江子（仮）

パネリスト：事例発表者

（日本女子大学、実証的な調査受託者等）

17:00～17:05 閉会挨拶

※12:30～18:00 ポスターセッション（支援者による展示）（同会場）